

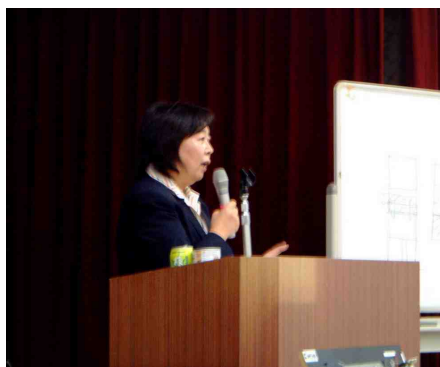
「身近にできる防災対策の講習会 ～ 我が家の地震対策は大丈夫？ 」
— 「備えあれば憂いなし」日頃からの準備・点検が身を守る— 開催報告

《概要》

開催日 2006年10月30日 19:00～20:00
開催地 南平岸会館(豊平区平岸2条14丁目1-26)
主催者 南平岸地区町内会連合会 地域改善実行委員会
まちづくり会「いきいき南平岸」
南平岸地区福祉のまち推進センター
共催者 住まいのプラットフォーム検討委員会
参加者 南平岸地区町内会連合会のみなさま
講師 山本明恵 (社団法人北海道建築士会、一級建築士)

南平岸地区町内会連合会のみなさまにお呼びいただき、「住まいの地震対策」について、様々な地域で防災に関する講演活動の経験をもつ、山本講師が講義を行いました。

この町内会連合会では、今年度、防災に関する事業として、日頃の防災対策の必要性を実感するために、札幌市防災センターを見学することで、火災、地震などの災害体験や、消防法改正に伴い設置が義務づけられた住宅用火災警報器についての研修会の実施など、地域や住まいに関する防災についての取組を進めてきました。



まず、山本講師より、家屋の耐震性について、下記の6点についてお話がありました。①「住宅が建築された時期で異なる。」昭和 50 年代以前(築 30 年以上経過)は、構造が比較的弱かったが、平成 7 年阪神大震災を契機に、構造の基準がしっかりなったこと。②「自分の住む建物がどうゆう構造かを知っておくこと」木造でも軸組やツーバイフォーなど色々ある。また、阪神大震災は直下型

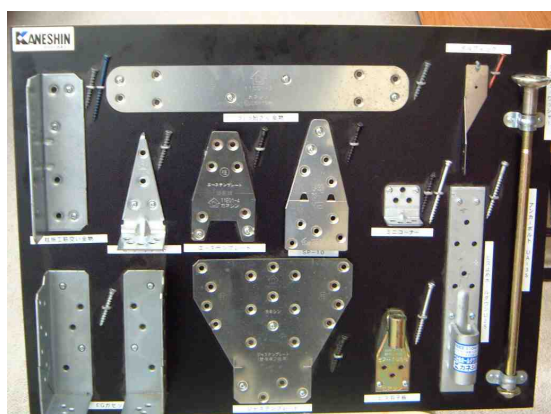
地震で、柱・梁が「引き抜ける」現象が起きた。これを契機に、羽子板ボルト等の金物による補強

が一般化してきた。金物は、現代の大工(職人)不足を補う側面もある。③建てる時の「地盤の善し悪し」や、高低差がある場合の「石垣等のひび割れ等の点検」が重要、④「建物の形状はシンプルが良い」、⑤「増改築の履歴」増築部分と既存部分が一体化されているか、間仕切りを変更した場合、三角屋根を無落雪に変更の場合に、補強の必要性、⑥「壁や窓のバランスが良いこと」日当たり重視で、南西面は窓が多く、壁が少なくなり結果的に弱くなる。和室の開戸の部分はどうしても弱くなる。X方向とY方向の壁量が違いすぎるのは良くない。

2 耐震性アップのための改修方法

25、30年経過すれば、柱・梁の虫喰いや断熱材の落下など、壁を剥がすことで、その確認ができるため、耐震改修を行う際は、できれば外壁を一度はがして行う方法をお勧めする。

できれば「耐震」と「断熱」をセットで行うと効率的である。筋交いが入らない壁面は、構造用合板を貼り付けて強固にするやり方がある。構造用合板は、床のフローリングの下に貼る事で、



ねじれに強くもなる。また、「引き抜き」の対抗策として、「柱」「土台」「基礎」の3点を一緒に止める方法が一般的になっている。改修時に、耐震性を向上させる金具を付ける事ができるので、リフォーム時に業者に相談してみるとよい。いずれにせよ、住宅を補強することで、「安心して住まい続けられる」ようになることが大切である。

3 自分でできる暮らしの中でのポイント

2階建の戸建住宅を想定すると、一般的に下階は居間など比較的広い部屋が多く、上階は、個室が多く壁量が多くなる。本棚など重いものを上階に置いていると、地震時に下階がつぶれる場合がある。

また、このセミナーにあたり、「非常持ち出し品」の一覧や、「家具を凶器にしない対策」、「耐震診断はどう行う」など、『(地震に対して)日頃から準備しておく事』と、いざ地震が発生した時に、安否確認や停電・ガスもれへの対応など、『地震発生時に頼りになる事(情報)』を整理した資料を、南平岸地区仕様で作成し、参加者に配布致しました。参加者の中には、「うちのマンションの全戸に配りたい」など、好評を頂きました。